

WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」

月間運用実績レポート（2026年6月）

■ パフォーマンス

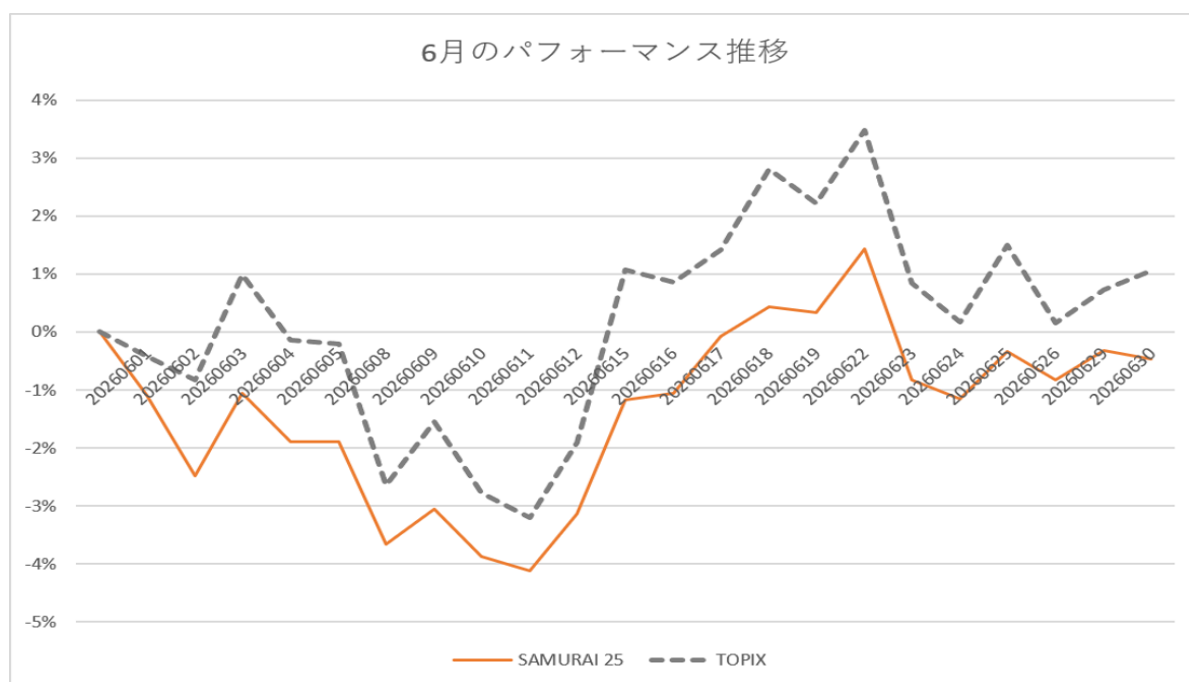
➤ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	▲0.46%
------------	--------

➤ 各指標の月間騰落率

TOPIX	+0.95%	(配当込み)	+1.05 %
日経225	+5.63%		
NYダウ	+2.52%		
S&P500	▲1.06%		
NASDAQ	▲2.81%		

➤ 6月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	-0.46%	5.58%	9.50%	47.44%	223.23%
TOPIX	1.05%	14.40%	18.56%	43.26%	160.22%
超過収益	-1.51%	-8.83%	-9.06%	4.18%	63.01%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

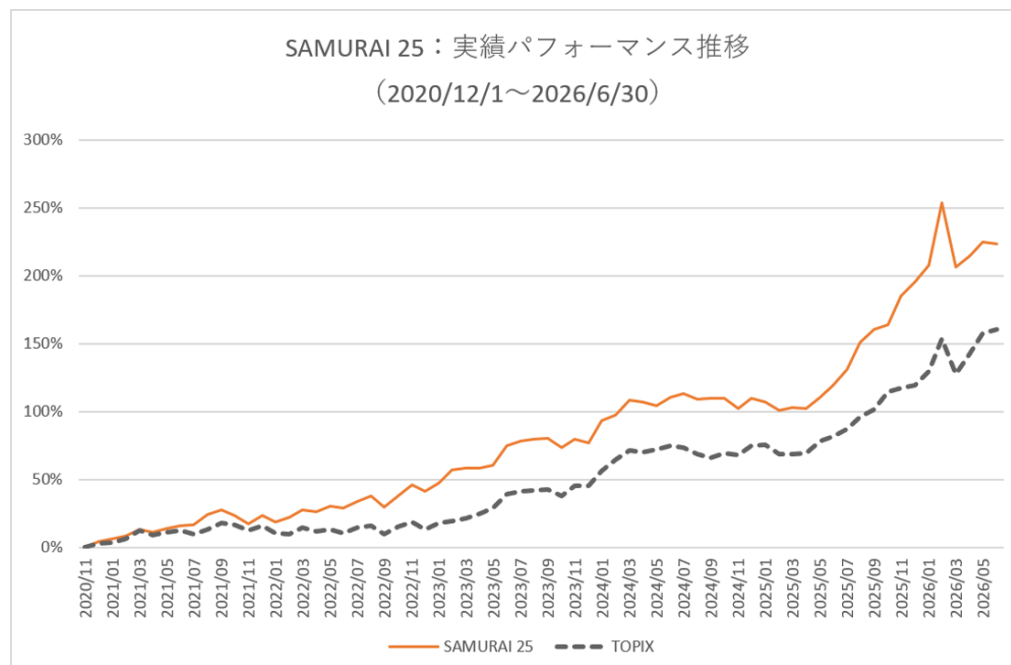
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

SAMURAI 25の6月の運用成績は▲0.46 %（配当込み）、TOPIX +1.05 %、対ベンチマーク比で▲1.51%（配当込み）となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

➤ **設定来のパフォーマンス推移グラフ**

SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2026年6月末までの運用実績です。



※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
年間リターン(2026年)	9.50%	18.56%
累積リターン(2020/12-2026/6)	223.23%	160.22%

リターン（年率換算）	23.38%	18.68%
リスク（年率換算）	14.35%	12.37%
下方リスク(年率換算)	7.57%	6.75%
シャープ・レシオ	1.63	1.51
ソルティノ・レシオ	3.09	2.77

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

■ 6月の市況概況

➤ 日本市場

6月の日本市場は、日銀による歴史的な追加利上げと1ドル161円台に迫る急激な円安進行が交錯する中、米国のAI相場に強く連動しました。海外投資家の旺盛な資金流入により、日経平均株価は史上初めて7万円の大台を突破する記録的な上昇を見せましたが、ボラティリティの激しい展開となりました。

・第1週（6月1日～6月5日）／日経225 +0.39% TOPIX : ▲0.20%

AI主導の最高値更新後に利益確定売り

ソフトバンクGやキオクシアなどAI関連株が相場を牽引し、日経平均株価は最高値を更新しました。しかし、日銀の早期追加利上げ観測が浮上したことや、米国の雇用統計を受けたハイテク株安の流れが波及し、週末にかけて広範囲に利益確定の売りが膨らみました。

・第2週（6月8日～6月12日）／日経225 : ▲0.85% TOPIX : ▲1.70%

米株連動の乱高下

週初は米株安に連れ安となり6万4000円台まで大幅に下落しましたが、その後、米国とイランの戦闘終結への期待からAI・半導体関連株に買い戻しが入り急反発しました。キオクシアHDが時価総額でトヨタ自動車を抜いて国内首位に浮上するなど、半導体関連株が急上昇する一方で、過熱に対する警戒感による利益確定売りも散見され、相反する思惑により市場は激しく上下しました。

・第3週（6月15日～6月19日）／日経225 : +7.92% TOPIX : +4.20%

日銀利上げ通過で初の7万円台突破

日銀の金融政策決定会合において、政策金利を1.0%へ引き上げる利上げが無難に通過し、市場に安心感が広がりました。米国とイランの合意に伴う原油安も追い風となって投資家のリスク選好姿勢が強まり、日経平均は史上初めて7万円の大台を突破する歴史的な上昇を記録しました。

・第4週（6月22日～6月26日）／日経225 : ▲2.65% TOPIX : ▲2.02%

高値警戒感からの急落とマイクロンの恩恵

週初、日経平均は一時7万2000円台に乗せましたが、米市場のAI投資減速懸念や過熱感から利益確定売りが膨らみ、翌日には、日経平均は2565円の大幅下落となりましたが、その後、米マイクロンの好決算を受けて安心感が広がり、AI半導体関連株を中心に買い戻しが入り、日経平均は3191円高と急反発し最高値を更新しました。しかし、その翌日には米オープンAIの上場延期報道を受けて国内の半導体関連株も連れ安し、日経平均は3005円の大幅な下落となるなど、歴史的な価格変動となる週となりました。

・第5週（6月29日～6月30日）／日経225 : +0.86% TOPIX : +0.32%

円安進行と内需株への資金シフト

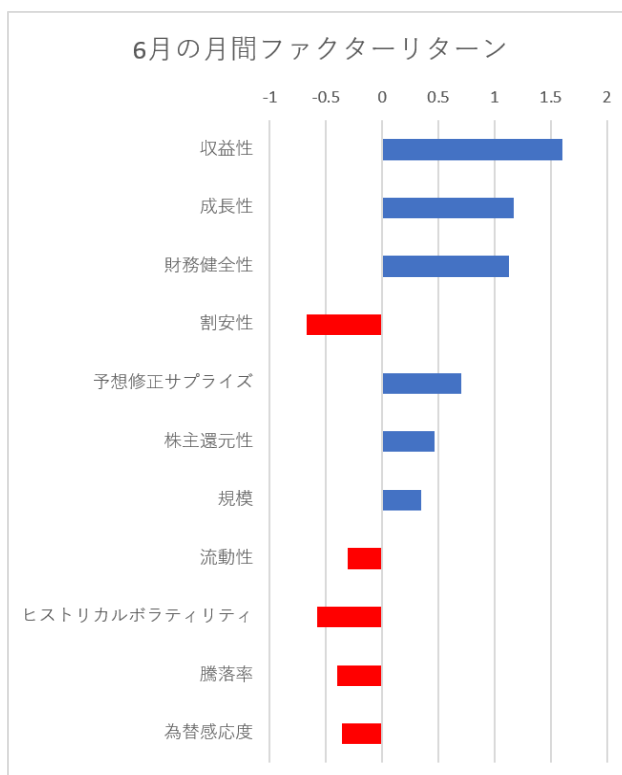
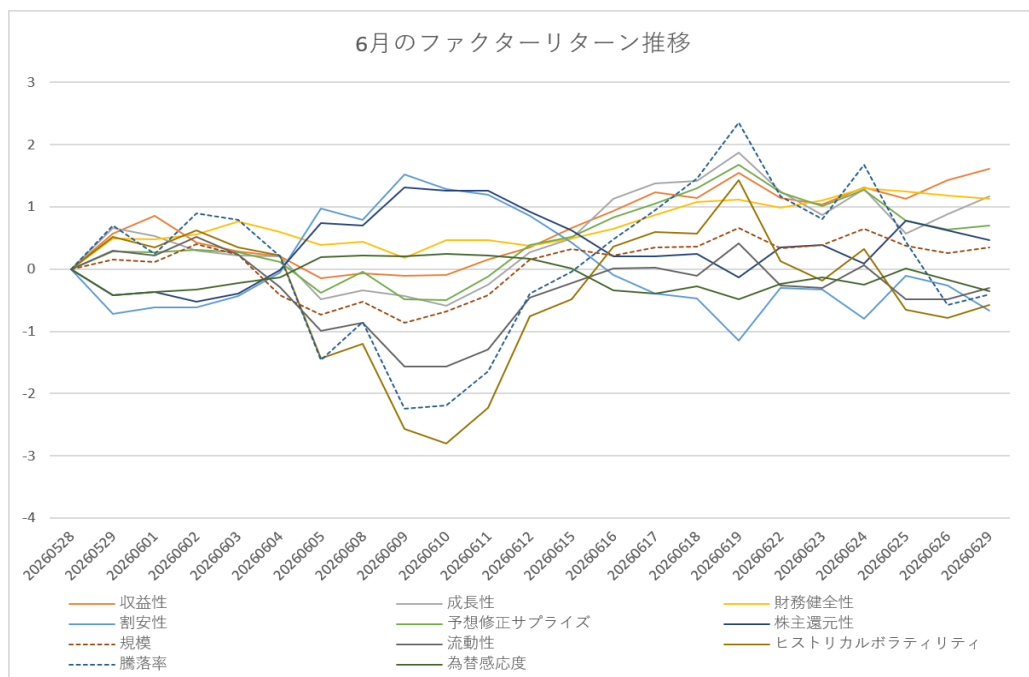
AI・半導体株への高値警戒感から、出遅れていた製薬や鉄道などの内需株へ資金がシフトする物色の変化が見られ、市場全体では底堅さを示しました。為替相場では、1ドル162円台に迫り、政府・日銀の為替介入への警戒感が一段と高まりました。

月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

6月は、出遅れ傾向にあった低リスクのクオリティ株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、収益性ファクター・成長性ファクター・財務健全性ファクター・予想修正サプライズファクター・株主還元性ファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・ヒストリカルボラティリティファクター・騰落率ファクターがマイナスとなり、急ピッチで上昇していたハイリスクのグロース株が調整するなか、出遅れ傾向にあった低リスクのクオリティ株へ資金が向かったことが見て取れます。



➤ ファクター寄与度

そのような市況環境のなか、**SAMURAI 25**は、市場平均であるTOPIXをアンダーパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアンダーパフォームした要因は、

SAMURAI 25が持つバリュー要素の「割安・高配当」特性が大きくマイナスに寄与、さらに、市場平均よりも「アンダーウエートしているヒストリカルボラティリティファクター（＝低リスク特性）」もマイナスに大きく寄与し、グロース要素の「高収益・高成長」特性だけではこれらマイナスを賄えなかったためです。

6月は、高値警戒感が出始めてきた、一部の指数寄与度が高いAI・半導体関連銘柄への利益確定売りが見られ、その受け皿として、出遅れ傾向にあった低リスクのクオリティ株が堅調となり、半導体関連株銘柄が乱高下するなか指数を下支えしました。

2月末から始まった中東での戦争により、高市トレードで沸いた景気敏感株から、一気に、無限の成長が見込まれるかの様なAI・半導体関連のグロース株へ資金は流れました。

しかし、流石に高値警戒感も出始めたこともあり、冷静な資金は出遅れ傾向にあった業績に裏打ちされたクオリティ株へ流れたようです。

先月のレポートでも、以下に言及しました。

AI関連銘柄の成長性の高さは誰もが否定するものではありませんが、無限の成長を織り込み続けることは、もはや、バブルに近い発想であり、「上がるから買う、買うから上がる」という上昇モメンタム（勢い）を追う投資は、ひとたび買い手が引けば急落につながるハイリスクなものです。

やはり、冷静な資金は、リスクが極めて高まったポートフォリオの一部を売却し、低リスクの銘柄へ乗り換える動きを見せたようです。

SAMURAI 25は、守りの「高配当・割安」特性、攻めの「高収益・高成長」特性、そして株価の起爆剤（カタリスト）となる「業績上方修正」特性を兼ね備えた、バランスの良いポートフォリオを運用し続けており、価格変動が大きな市場環境において、これまでも実績を残してきました。

バランスの良い「本質的価値のある銘柄群を保有する」という運用哲学を変えることなく、実績ある運用戦略を一貫して行うことが重要と考えています。

➤ 個別銘柄寄与度

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	2802	味の素株式会社	3.6%	0.473%	
		調味料のグローバル大手。「味の素」「ほんだし」などの食品事業に加え、アミノ酸技術を応用した医薬用・電子材料（半導体パッケージ用絶縁フィルム「ABF」）などのヘルスケア等ライフサイエンス事業がもう一つの大きな柱です。食品事業での国際的な値上げ浸透に加え、生成AI市場の爆発的な拡大に伴い、高性能サーバー向け半導体材料（ABF）の需要が極めて旺盛です。直近の決算でも高水準の利益成長を維持しています。食品としての安定したキャッシュ創出力と、AI半導体関連銘柄としての成長性のハイブリッドなビジネスモデルが、国内外の投資家から高く評価されています。			
2	5334	日本特殊陶業株式会社	6.9%	0.354%	
		スパークプラグや車載用センサなどの自動車部品、および半導体パッケージや医療用セラミックなどのテクニカルセラミックスを展開。スパークプラグでは世界トップクラスのシェアを誇ります。2026年3月期に過去最高益を達成した反動や、今期（2027年3月期）の為替前提の慎重さから会社側は減益予想を出していますが、実需は底堅いです。EV（電気自動車）シフトの減速に伴い、内燃機関（プラグ）需要が想定より長引いていることも追い風です。会社側の今期見通しは慎重すぎるとの見方もあるなか、高い配当利回りと強固な財務体質が評価されています。			
3	4206	アイカ工業株式会社	4.7%	0.320%	
		化成品（接着剤等）と建装・建材（メラミン化粧板等）の大手メーカー。特にメラミン化粧板は国内シェア圧倒的首位で、オフィスや商業施設、住宅に広く使われています。国内の旺盛な都市再開発や非住宅（商業施設・オフィス）向け建材の需要が堅調です。また、海外（特に対アジア地域）での化成品事業の拡大や、環境配慮型製品の開発強化に注力しています。独自のニッチ市場で高いシェアを持つ安定性が評価されています。			
4	5016	J X 金属株式会社	2.7%	0.308%	
		ENEOSグループからスピンオフし、2025年3月に上場した非鉄金属・高機能材料のグローバル大手です。銅の採掘・製錬などの資源事業をルーツに持ち、現在はAIサーバーや通信機器に不可欠な半導体材料（ターゲット材やインジウムリン基板）、情報通信材料、高精密な電子用銅箔などの製造・販売で世界的に高いシェアを誇っています。人工知能（AI）データセンターの急速な普及に伴う半導体検査需要の拡大に対応するため、積極的な設備投資を進めています。2026年6月には、半導体集積回路の検査部品に用いられる「ロジウムめっき液」の生産能力を2028年度までに倍増させる計画を発表しました。また、光通信用の半導体材料である「インジウムリン基板」の生産能力を大幅に引き上げる方針も示しており、先端半導体分野での供給体制強化が目立っています。積極的な増産投資による中長期的な収益押し上げ効果が評価されています。			
5	1980	ダイダン株式会社	3.6%	0.291%	
		電気、給排水衛生設備を手掛ける総合設備工事会社。「光と空気と水のエンジニアリング」を掲げ、特に高度な環境制御が必要な医療施設、医薬工場、データセンター、半導体クリーンルームの施工に強み。国内のDX推進やAI拡大に伴う「データセンター」の建設ラッシュ、および半導体工場の新増設が強烈な追い風となっています。豊富な受注残高を抱えており、今期も高い業績の進捗が期待されています。インフラ投資の国策的なテーマ（半導体・データセンター）に直結している点、施工効率化による利益率の向上、そして新導入された「DOE（株主資本配当率）4.8%を下限」とする強力な配当方針が市場から高く支持されています。			

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

特色 3：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX ±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 7月6日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Ｊトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会